

平成27年1月1日(木)

老球の細道97号

毎日がお正月

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

「一步より始まる百歩、去年、今年、来年！」

信念明けまして今年もやるぞ。当たり前のことだが元旦を迎えると身も心も引き締まる。1年の始まりだからである。連綿と連なる何ら変わりばえない日々の連続であるが、暦の上でのけじめをつけることで心の仕切り直しができる。暦は人間が作り出した見事な生きる知恵であり文化である。

何事もはじめの一步が肝腎なのは言わずと知れたこと。始め良ければ終わり良し。終わりよければすべて良し。2015年大晦日に「すべて良し」と心の満足と平安を得るためには2015年元旦のスタート時の心の持ち方が大切であろう。バスケットボールのゲームで言えば1クォーター・スタートのファーストシュートというところであろうか。

「なんとなく 今年が良いこと あるごとし 元旦の朝 晴れて風なし」

大好きな石川啄木の短歌である。今年の元旦は前日の天気予報が嘘のような穏やかな一日となった。運動不足の私にとっては除雪トレーニングが毎日のメニューなのに、捨てる雪も少なく物足りなかった。大雪の地域の人にはすみません。いずれにせよ、今年も良いことがたくさんあって欲しい。じゃなくて、たくさん作っていかなければならない。

お正月がこんなに新鮮な気持ちになれるなら、毎日がお正月であるべきである。カレンダーの世界では1年に1回しかその日はないかもしれないが、心のカレンダーでは毎日をお正月のような特別な日にすべきである。毎日が意味のある日、毎日が意味のある記念日だったらどれだけすばらしい1日、1年を過ごせることだろう。

高校時代、生来の恩師に出会い、バスケットボールに目覚めさせられてから40年。会津から日本一のチームを、世界に通用する選手を育てることを目標に歩んできた。にもかかわらず、わが努力足らず未だ目標達成できずに定年退職となってしまった。コーチ生活もいつまでできるかわからないが毎年毎年「正念場」と自戒している。残り少ない日々を考えると毎日がお正月よりも毎日が背水の陣かもしれない。

お正月は夢を見る日。自分の夢を顧みる時、いつも坂本龍馬を思い出す。20代の前半に司馬遼太郎の小説『龍馬がゆく』に出会ってから心酔した。龍馬のスケールの大きな生き方に自分のちっぽけさを思い知らされた。龍馬曰く、「この世に生を受けたるは事をなすことにあり」。私にとって事をなすとは何か。私にできることは何か。そう考えるとバスケットボールしかない。バスケットボールを極め、バスケットボールの社会的認知度を高めること。

今年もまた日本バスケットボール界は行く先が不透明な状況がしばらく続くようである。行く先が不透明で前が見えないことは不安であるが、プラス思考、逆発想で考えると自分次第でどうにでもなるということにつながるのではないだろうか。人生先が見えない時が華。見えてしまったらつまらない。見えにくい未来を「情熱」という灯りをともしながら「努力」という地道な力で進んで行けば面白い所に辿り着くかもしれない。

クオリティーの高いバスケットボールをこの会津から発信できるよう、今年もまた毎日がお正月、毎日が特別な日として真摯にバスケットボールと向かい合って生きて行こう。